

活動報告 四季の森公園「自然を訪ねて～クモってすごい」

日 時：9月17日（日）13：00～15：00 晴れ

場 所：四季の森公園 はす池・あし原湿原周辺ほか

参加者：一般10名（うち子供3名）、公園職員1名、JFIKスタッフ3名

3連休の中日、炎暑の中、クモの観察会を行いました。

最初に観察したのは、ビジターセンター前の天幕の支柱に不規則網を張っていたオオヒメグモ。次は北口広場の植え込みの中で大きな垂直円網を張っていたジョロウグモでした。



ビジターセンターの前で、オオヒメグモを観察しています。

このクモは、粘着性のない不規則な網から、末端付近に粘着物質のついた糸を下ろし、地面や壁に固定します。歩いてきた虫がその糸に触れると、糸が接地面から外れ、獲物が宙づりになります。

今回は、卵のうも見られ、林の中の休憩所では、破れた卵のうから出た子グモたちの「クモの子を散らす」様子も見ることができました。

園内の別の場所では、ヤモリが宙づりになっているオオヒメグモの網を見ることもできました。



北口広場でジョロウグモを観察しています。網は中心となる垂直円網の前後に補助の網がある 3 重の構造になっています。円の中心（こしき）に雌が逆さにとまっていますが網は下側の方がずっと広いので、網全体で見るとかなり上方で待機していることになります。

ジョロウグモの網は横糸の並びが五線譜のように見えます。円網を張るクモは、円の中心から円周に向かう放射状の縦糸を張った後、同心円状に足場糸を間隔をあけて張り、その後でいよいよ粘液のついた横糸を細かく張っていくのですが、その際に足場糸は切ってしまう、そこにも横糸を張るので横糸は連続して等間隔に並びます。ところが、ジョロウグモは足場糸を切らずに残します。足場糸はとても細く見えにくいのでそこが空いているように見え、五線譜のように見えるというわけです。

ここでは、大きな網を張ったよく育った雌とその個体と粹糸を一部共有した小型の雌が見られました。また、大型の雌の網には 2 匹の雄がいて、そのうち大きい方が雌のすぐそばに、小さい方が網の端の方にいました。これら雌雄の出会いも含め、1 年で完結するジョロウグモの一生について説明を受けました。

春の草原の小川では水平円網を張ったアシナガグモと垂直円網を張ったナガコガネグモが何匹かずつ見られました。以下 4 枚はナガコガネグモを撮ったものです。



↑腹側。円網には白帯がついていました。このクモは、網に獲物がかかるとかみつく前に捕帯と呼ばれる糸の束を飛ばして獲物をからめ捕ります。因みにジョロウグモはかみついて毒液で獲物の動きを止めてから糸で包むそうです。



↑背側。このクモは刺激されると自分の網を大きく前後に揺らします。それを見ているところ↑。

ほかにも、いろいろな観察ができました。



オオシロカネグモです。小さいうちは樹間で斜めの円網を、大きくなると水流の上などに大きな水平円網を張ります。



クサグモの卵のうです。トイレの軒下にくっついていました。直径は4cm程です。管状住居が下にあり、母親？の姿も見えました。



ワキグロサツマノミダマシです。夜行性で、夕方円網を張り、朝になると網を片付けて（食べて）、休みます。



とても小さいのではっきりしませんが、ギンナガゴミグモの幼体と思われます。若い個体は垂直円網に幅広でらせん状の白帯をつけるのが特徴です。



シラカシの幹の地際にあったジグモの巣を見えています。例年は、このような林縁で、ハエトリグモの仲間や、ハシリグモの仲間など徘徊性のクモがよく見られましたが、今年は見られませんでした。花に乗って蜜を吸いに来る昆虫を待ち伏せるアズチグモやハナグモなども見られませんでした。1週間前の下見でもアズチグモが1匹見つかったただけでした。たまたまだとよいのだけれど。